

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 077	提案機関名 全農神奈川県本部 農産部
要望問題名 肥料成分の投下量を減らした栽培体系・栽培技術の確立に向けた研究（継続）	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 20年度の肥料価格高騰以降の値下がりがあったものの、生産資材は海外原料に依存しておりまた有限資源であることから、将来的には価格高騰の可能性が高い。一方、農産物販売価格は低迷しており、農家経営に与える影響は非常に大きくなっていく。そのため、施肥コストの低減に向け、投下分量を減らした栽培体系・栽培技術の確立に向けた研究をお願いしたい。 特にリン・加里の原料価格の上昇が激しいため、PK成分を落としたL型の複合肥料について実証展示圃の設置をお願いしたい。（2～3年継続）	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部土壌環境研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 精密土壌管理技術による低コスト施肥技術の開発（H23～H27）		
対応の内容等	当センターでは、原料が有限でかつ海外依存性の高いリン・カリの価格高騰への懸念や、県内の土壌診断結果から土壌にリン酸やカリが蓄積傾向にあることを受けて、適正施肥技術確立のために上記課題に取り組んでいます。この課題の中で、野菜作におけるリン酸減肥基準の策定や、PK成分を落としたL型複合肥料についての実証試験を実施しています。これにより、施肥コストの低減に向けた、投下分量を減らした栽培体系・栽培技術の確立に関する研究を継続していきます。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			